

環境問題に対する意識と保全行動及び環境家計簿等に関する調査

結果報告書（概要版）

平成17年3月

**立命館大学院社会学研究科和田武研究室
兵庫県地球温暖化防止活動推進センター
(財団法人 ひょうご環境創造協会)**

1. 調査目的

本調査の目的は、環境家計簿の取り組み者に焦点を当て、環境家計簿がどのように生活者に普及され、その結果、生活者の環境問題に対する意識や保全活動をどのように変化させるのか、更には家庭や地域社会に対しどのような効果や影響を及ぼすかを、環境家計簿導入の歴史的背景も踏まえ明らかにするものである。

2. 環境家計簿導入の歴史的背景と特徴

「兵庫県の環境家計簿事業の概要」を表1のとおりまとめた。

目的	①兵庫県内におけるCO ₂ 排出量削減の強化(2010年までの温室効果ガス削減目標値1990年比6%) ②循環型社会の実現に向けての県民によるエコライフの獲得(5R*)
開始時期	平成10年
事業主体	兵庫県が地球温暖化防止活動推進センターとして指定した財団法人ひょうご環境創造協会と協働
対象者	地球環境10%クラブ会員、消費者団体、ひょうご環境創造協会会員、広報による希望者 県外の生活者他
事業内容	①広報誌による事業公開(地球温暖化防止活動推進センターの広報誌) ②地球温暖化防止活動推進員・協力員との協働による普及・啓発活動 ③カレンダー式環境家計簿(以下「エコチェックカレンダー」という)の作成 [18ページもの、内容:地球温暖化のメカニズム・影響の説明、兵庫県の取組、兵庫県の部門別CO ₂ 排出量の推移、環境家計簿の見方・使い方、エコライフのヒント(12か月分)、エコチェック項目(季節に対応した二五項目3段階評価)による自己診断、電気・ガス・水道・ガソリン・灯油の使用量の報告書、アンケート、3か月毎の報告書郵送用封筒、電気ガスの平均使用量との比較グラフ、グリーンエネルギー基金の募集等] ④通年取組可(カレンダー方式に代わるエコライフノートでの取組)
進め方	①「地球環境10%クラブ」会員募集およびのエコチェックカレンダー取組者募集 ②地球温暖化防止活動推進員・協力員によるエコチェックカレンダーの配布 ③4半期ごとに、エコチェックカレンダーに添付の報告書を郵送(またはファクス) ④エコチェック通信発行(年3回) ⑤エコチェックレポート発行(全体評価、年1回) ⑥取組者を表彰(副賞の授与)

「*リデュース、リユース、リペアー、リサイクル、リフューズを指す。」

「(出所等)聞き取りおよび「エコチェックカレンダー」「環境家計簿検討委員会」の資料による。」(表1 兵庫県の環境家計簿事業の概要)

3. 調査方法

1) 調査対象

兵庫県下の環境家計簿の継続取り組み者（500人）を対象とした。

2) 調査デザイン

アンケート調査票による調査とし、立命館大学院社会学研究科和田武研究室と兵庫県地球温暖化防止活動推進センター（財団法人ひょうご環境創造協会）と共同で調査することとした。したがってその内容や様式についてはそれぞれのニーズを踏まえ、すり合わせを行った。

アンケート調査票を環境家計簿の継続取り組み者に配布し、回答は各自から返送用封筒により、財団法人ひょうご環境創造協会経由で、回収した。

4. 調査結果

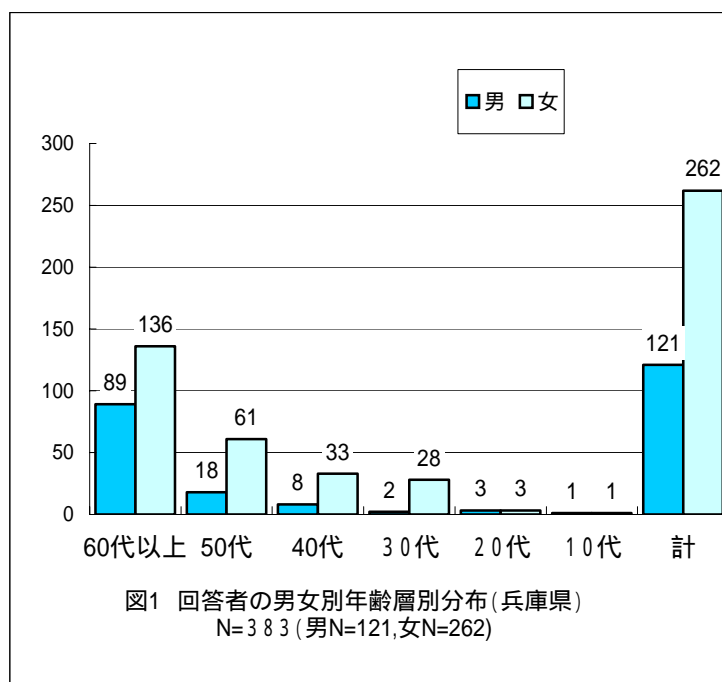
1) 回収件数および回収率等

回収件数 384件、77%（384/500件） うち有効分 **383件**（**男性121件**女性262件）、77%（383/500件）

2) 分析結果（アンケート項目別）

①回答者の男女別、年齢層別の分布

・図1のとおり、有効回収件数が383件で、男性は121件と全体の32%を占めた。環境家計簿は、どの自治体でも女性の取組者が多いと報告されている中で、兵庫県の例は特異である。その要因は、三者協働で自主的、積極的に温暖化防止に貢献しようという県民意識の高さを反映させた「地球環境10%クラブ」の会の結成にあると推測される。しかし、60歳以上が59%（男74%、女52%）と大半を占めているのは、どの自治体も同じ傾向である。



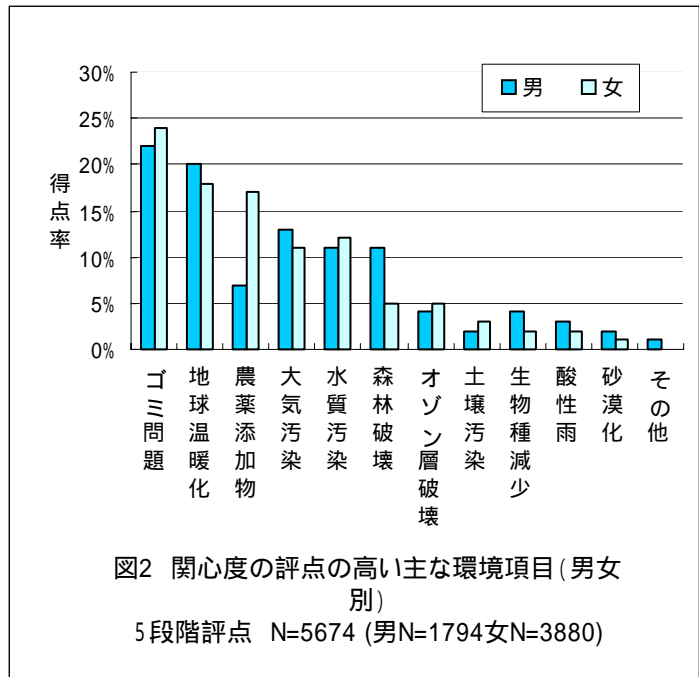
②年齢層別推進員等の経験の有無等

・図1のとおり、推進員等の経験者も60歳以上が70%という高比率であった。したがって分析では、60歳を区切りとし、適宜、男女別、年齢層別、推進員等の経験の有無別に比較したが、必要に応じ60歳未満をさらに50代、20～40代に区分し比較分析した。

③関心度の高い環境問題および地球温暖化問題の捉えかた等

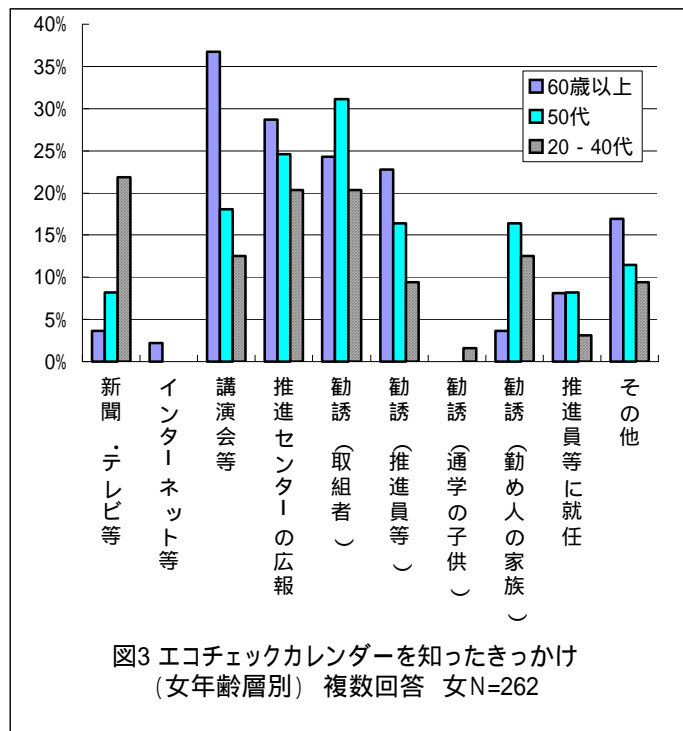
・関心度の高い環境問題は、図2のとおり、男女ともに第1位はゴミ問題、第2位は地球温暖化問題であった。第3位以下は男性で、大気汚染、水質汚染・森林破壊（同率）であったが、女性は農薬食品添加物、水質汚染、大気汚染であった。

・地球温暖化問題の捉え方については、男女ともに「グリーン購入による対応で早期に解決すべき」とし、「子孫や他者に責任を感じる」、「市民、企業、政府の3者協働」による解決の必要性を上げている。ただ、20～40代の男女は「子孫や他者に責任を感じる」、「市民、企業、政府の3者協働」の比率は低かった。その他は「企業責任が大きい」、「国がもっと本腰を入れるべき」等である。

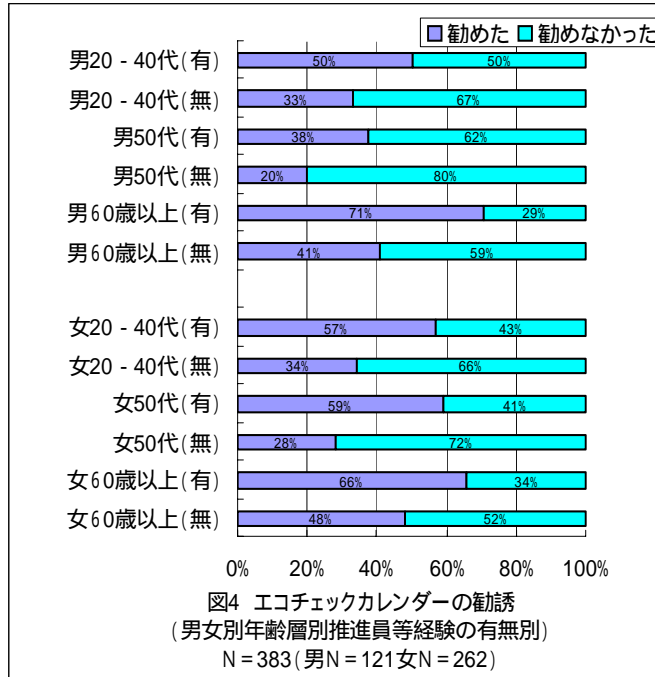


④環境家計簿を知ったきっかけ等

・図3のとおり、60歳以上の男性と50歳以上の女性では、講演会等や推進センターで情報を得、取り組み者や推進員等からも薦められている。しかし20～40代の男女は、講演会等にはあまり参加せず、取り組み者や、とりわけ推進員から勧誘されることも少ない。ただ、50代、20～40代の女性は、勤め人の家族から知る機会が若干ある。その他は、「役所の窓口」、「婦人会」、「消費者協会」等である。



・環境家計簿の継続期間は、「2年以上」が57%を占めた。環境家計簿の「勧誘」については、**図4**のとおり、60歳以上の男女とも推進員の経験の有無にかかわらず、勧誘率は概して高い。しかし、20～40代の男女の勧誘率は概して低く、(注-グラフでは若い人の人数が少ないため比率が高く出る)先述の取り組んだきっかけと符合する。つまり一般に、男女とも同世代に勧誘する傾向があるため高齢者は勧誘によって知る機会が多いが、20～40代の男女は、推進センターの広報を見る機会を失すると、環境家計簿を知る機会が狭められるため、若い人に取り組み者が少ない原因の一つを作っているように推測される。勧誘人数は、一人から数百人と幅がある。

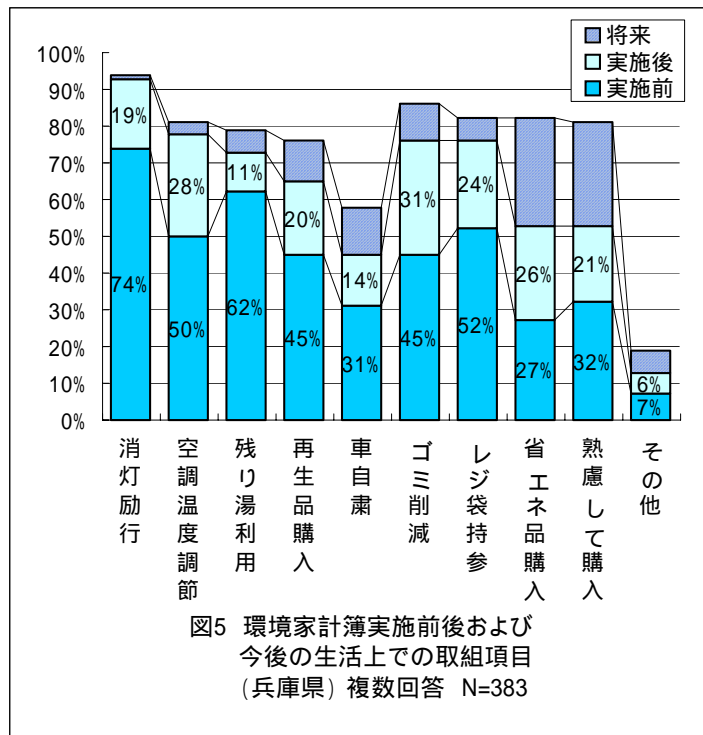


⑤環境家計簿の取り組みによる意識や行動への影響等

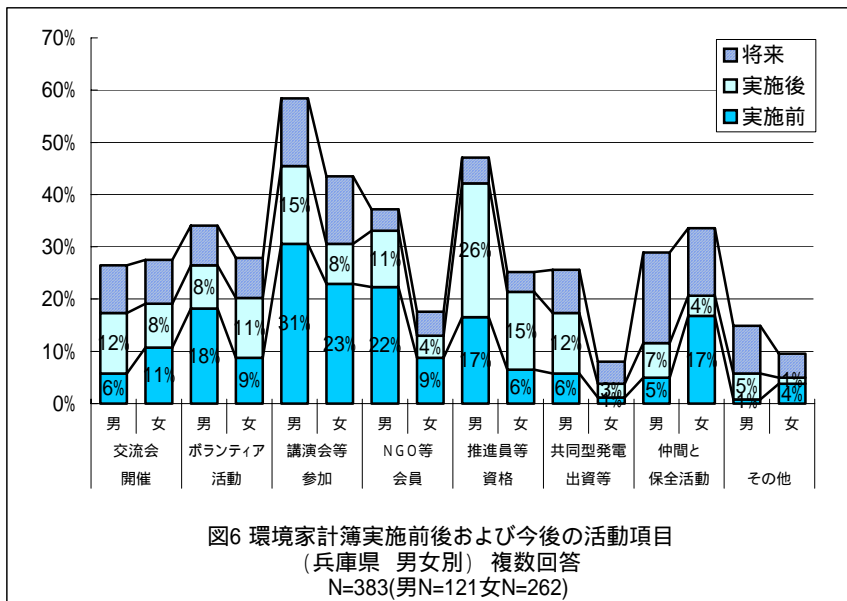
・意識については、60歳以上の男女に取り組み前からも高め高い比率で「物を大切に使うことの重要性の認知」や「生活品の過剰所有の認知」などに気づきが生じ「シンプルな生活志向」を心がけている。しかし、60歳未満の女性にはばらつきがあり、60歳未満の男性では、20%近くが変化なしであった。

・日常生活における保全行動については、**図5**のとおり、「消灯励行」や「残り湯の利用」「レジ袋持参」「空調温度調節」など家計の軽減につながることや、簡単なことが事前に高い比率で実践されていた。しかし、取り組み後は「ゴミ削減」や「空調温度調節」「省エネ品の購入」など難しい項目も比較的高い比率で実践されている。そして、将来は「省エネ品の購入」や「熟慮して購入」を目指すのが、「車の自粛」は難しいようである。

・省エネ、省資源のための器具や装置については、家計の軽減につながり、簡単に実践できる「節電用電灯などへの買い替え」は、事前事後とも比較的高い比率で実践されていた。



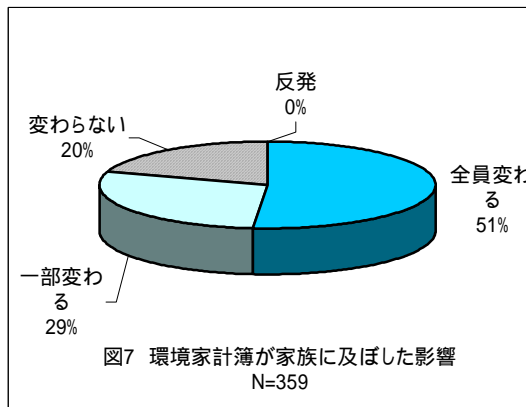
・地球温暖化防止活動については、**図6**のとおり、事前には男女ともに「環境問題に関する講演会などに参加」が最も高い比率で実践されていた。そのほかに、男性では、「NGO等の会員になる」や「環境ボランティアとして活動」、「推進員等の資格取得」が高く、「市民共同型発電への出資」などにも目が向けられていた。



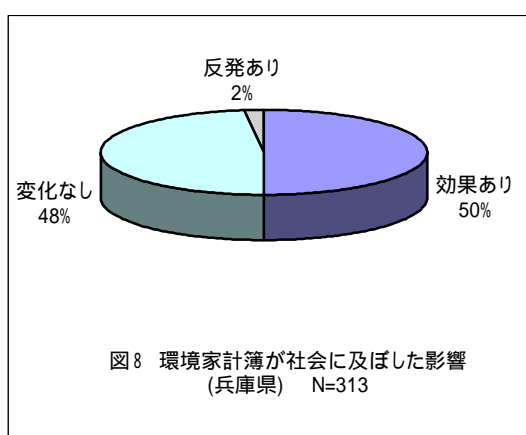
一方、女性では、「仲間と保全活動」、や「交流会の開催」に目が向けられるなど、性差的特徴が見られた。しかし、環境家計簿の取り組み後は、男性で「推進員等の資格取得」や「市民共同型発電への出資」、「NGO等の会員になる」等に相変わらず関心が注がれていたが、「交流会への開催」にも関心が寄せられ、将来は「仲間と保全活動」に意欲を見せている。一方、女性も、「推進員等の資格取得」や「ボランティア活動」などが伸びている。

⑥環境家計簿の取り組みが家族や地域社会に及ぼした影響等

・家族への影響については、**図7**のとおり「家族全員が保全行動に取り組むようになった」「一部が取り組むようになった」を併せた割合は、**80%**と高く、家族へ及ぼす効果が非常に大きいことが明らかになった。ただ、アンケートのプロトコルから推測されるように、男性から提言・進言されるほうが効果は大きいようである。



・地域社会への影響については、**図8**のとおり、**50%**とこれも高い比率で影響を及ぼしている。その内容は、「環境家計簿の取り組み」が**35%**、「保全活動が活性化した」(ゴミの堆肥化、買物バッグ持参等)は、**30%**、「仲間と組んで保全活動などに取り組む」(買物バッグ持参運動、廃油で石鹸づくり等)は**50%**であった。一方、「反発」も**2%**あった。



⑦環境家計簿の満足度

「満足している」は79%と高い比率である。不満とする声の中に、ステップアップ方式の環境家計簿の開発を望む声や、交流会の開催を希望する声、意識の低い人に普及するべきという声、若い人に普及するべきという声がある。

3) 分析結果 (まとめ)

兵庫県の環境家計簿の取り組みは、家族に影響を及ぼし、家庭からのCO₂排出量削減の効果が認められた。しかし、それだけではない。毎日の取り組みから、次第に社会に目が向けられた行動、例えば、「環境家計簿の勧誘」や「仲間との保全活動」、「ボランティア活動」、特に男性では「NGOの会員になる」、「市民共同型発電への出資など」へとさらに進展していることも認められ、環境家計簿の社会的効果や影響も検証することができた。

すなわち、環境家計簿の取り組みは、自分自身における相互作用（新聞・TV、環境家計簿の資料などの情報から得た知識によって自分の行動をモニターし、それを修正するなどコントロールすること）や、家族、仲間とのコミュニケーションによる相互作用により、メタ認知（高次な気づき）が生じ、それによって保全行動がさらに高まるという連鎖反応でメタ認知効果が促進され、その結果、社会の成員として今何をなすべきかという自覚が生まれるなど教育的効果も現れているように思われた。

なお、以下の（参考）「京都市における一般生活者を対象としたアンケート調査結果」は、若・中年層における環境問題への関心度や環境家計簿の認識の程度を問う調査で、環境家計簿が認識されていないことを明らかにしたものであるが、これによっても、環境家計簿の取り組み者とそうでない者とは、メタ認知（高次な気づき）の観点から大きな隔たりがあることが検証されているように思われる。

（参考）京都市における一般生活者を対象としたアンケート調査結果

本調査に関連して、参考的に京都市の街頭において、若・中年層（20～40代）の生活者を対象に環境家計簿の認識の程度等を問うアンケート調査を行った。調査結果の概要は次のとおりである。

（1）回収件数および回収率等

有効回収件数 **52件**（**男性1件**女性51件）回収率52%（52/100件）

（2）分析結果

①環境家計簿の認識については京都市の一般の若・中年主婦層は、環境家計簿の存在をテレビなどで聞いたことはあるというものが若干いた(12%)。しかし、自治体がこれを推進していることは知らず、全員が環境家計簿をつけたことがないということであった。

②彼らの環境問題への関心度や温暖化問題の捉え方については兵庫県の環境家計簿の取り組み者と遜色はないが、日常生活において取り組んでいる保全行動等は、家計負担軽減につながる項目は兵庫県の環境家計簿の取り組み前よりむしろ高い比率で実践されているものの、環境問題を考えた項目の実践度は低かった。また、兵庫県の環境家計簿の取り組み後における保全行動との比

較ではどの項目も逆転し低くなった。

③地球温暖化防止活動については、「仲間と保全活動」や「環境ボランティア活動」、「NGO の会員になる」など、社会に根ざした項目などは、ほとんど実践されていなかった。

以上②③より環境家計簿の取り組み者とそうでない者との差が検証できたと思われる。

④「温暖化防止に向け何かしたい」（84%）が、何をどのようにすればいいのかわからないから実践的知識（情報）を欲しいと訴えていることがプロトコルによってわかった。また、環境家計簿の学習会への参加は無理（65%）だが、環境家計簿のつけ方を理解できたらつける、あるいは市から配布されれば「つける」と答えた人は、「少し」も含め、それぞれ 60%、76%もいることが判った。

5. その他（回答者からの意見、要望等）

回答者からの環境家計簿に関する改善意見や要望を、データー等に基づき次のとおりまとめた。

（1）交流会などコミュニケーションを図る場の設定

交流会は、①異なった考えを持つ他者との意見交換(コミュニケーション)によって、メタ認知(高次な気づき)の活性化が図られ、環境問題に対する意識や保全行動がさらに高められる。②自分ひとりだけの取り組みでは効果が見えにくく、取り組み者は中断する恐れがあるが、仲間と交流することによって連帯意識や、効果が上がっているという達成感が獲得できる。したがって、推進員・協力員には、交流会の場作りも担われることを期待したい。

（2）環境家計簿のステップアップ化

兵庫県における環境家計簿の取り組み者は意識が高いので、初級、中級、上級編へとステップアップできるものを考案されるよう期待したい。

（3）環境家計簿の普及対象者の選定

①温暖化を何とかしたいと考えている 20～40 代の若・中年層への普及を図られたい。子供が何かを学ぶ上で必要となるものに教科書があるように、環境家計簿は、一人ひとりが大きな環境問題に取り組む上で、なぜ、何を、どのようにすればよいかを紐解く教科書だからである。また、子供が家庭で親と共に環境問題について学ぶ好機ともなるからである。

②環境家計簿は、環境意識のあまり高くない人に進めるべきという声があるが、むしろ、関心の高い生活者に進め、継続して取り組んでもらい、人数を多くして層を厚くしその後関心の薄い生活者をじわじわと包囲していくことが有効な方策のように思われる。このことは、三者協働、なかでも推進員・協力員等の活躍によって、意識の高い人を中心に環境家計簿の普及活動が進んでいる兵庫県の事例が証明しているように思われる。したがって、意識の高い人が継続して取り組めるような工夫、例えば、環境家計簿の取り組みによって高められた高次な意識を、家庭だけでなく仲間と連帯して地域や社会に生かせるよう、専門的なアドバイスができる環境コーディネーターを置くことなどが必要であり、その役割も推進員や協力員が担われることを期待したい。

選考問題に対する意識と保全行動及び環境保全活動等に関する調査

兵庫県地球温暖化防止活動推進センター
(財団法人 ひょうご環境創造協会)

アンケートをお願いするに当たって

このアンケートは、地球温暖化防止活動の研究に際するため、立命館大学社会科学部、和田武研究センター、環境問題に関する意識と保全行動及び環境保全活動等について実施するものです。つきましては、あなたご自身の回答を機軸として、環境問題についてのご意見やご体験を正直にお答えください。

なお、ご回答いただいた結果につきましては、個人情報の守秘義務を遵守し、上記の目的以外には使用いたしませんので、おましくご協力いただきますようお願い申し上げます。

次の質問について、あなたが最も該当すると思われるものに○印をつけてください。また、記入の必要な箇所には出来るだけ具体的に記入ください。

※アンケートの回答は回答用紙に記入ください。

※回答用紙は返信用封筒にて返送し、返送日と返送先を明記してください。

- あなたご自身の性別 ①男 ②女
- あなたの年齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代以上
- あなたのご職業
①自営業 ②会社員 ③公務員 ④主婦 ⑤パートタイム・フリーター
⑥学生 ⑦無職 ⑧その他 ()
- あなたのご家族の年齢構成を①～⑦に、またご家族の人数を併にご記入ください。
(ご自身も含めて)
①10歳未満 ()人 ②10代 ()人 ③20代 ()人
④30代 ()人 ⑤40代 ()人 ⑥50代 ()人
⑦60歳以上 ()人 ⑧合計 ()人
- 兵庫県地球温暖化防止活動推進員、協力員など、あなたのご関係。
①あり (約 単位 名程度) または (約 単位 名程度)
②なし

- あなたご自身の関心を持っておられる環境問題は何か、関心の高いものから5つ選んで順番に番号を付けてお答えください。
()

 - ① ゴミ問題 (燃費・処理など)
 - ② 森林破壊
 - ③ 大気汚染
 - ④ 水質汚染
 - ⑤ 地球温暖化問題
 - ⑥ 土壌汚染
 - ⑦ 砂漠化
 - ⑧ オゾン層破壊
 - ⑨ 生物多様性の減少
 - ⑩ その他 ()

- あなたは、地球温暖化問題をどのように捉えていますか、下記の半から該当すると思われるものを選び、○印をつけてください。(複数回答可)
 - ① 自分の生活が、他者(気象・気候・自然環境など)の健康や命に悪影響を与えていると思う。
 - ② 子や孫に対し責任を感じる。
 - ③ 自然環境(動物・植物など)や私たちが市民の方を助出し、企業や政府と協働すれば解決できる。
 - ④ 多分コストが高くて、省エネ製品や、自然エネルギーを推進する企業を支援しなければならぬ。
 - ⑤ 私達の手に負えるものでないと考えている。
 - ⑥ 人間が生きていくための環境であり、成るようには成らないと思う。
 - ⑦ 環境化政策は、普及するから、するが、普及しないなら、したくない。
 - ⑧ 解決するか、しないかは、次世代の人の課題だ。
 - ⑨ 温暖化の影響は余り感じられないので深刻には捉えていない。
 - ⑩ 温暖化問題に関係なく、燃料や体感気温を今ままでお好み温度にしたい。
 - ⑪ 一罰もはやく手を打たないと、取り返しがつかなくなると思う。
 - ⑫ その他 ()
- あなたはどのようにしてエコチェックカレンダー、エコチェックノートなどを活用になりましたか、下記の半から該当すると選ばれるものを選び、○印をつけてください。
(複数回答可)
 - ① テレビ、新聞などメディアによって知った。
 - ② インターネットやEメール通信によって知った。
 - ③ 地球問題の講演会などに参加して知った。
 - ④ 兵庫県地球温暖化防止推進センターの広報によって知った。
 - ⑤ エコチェックカレンダー(ノートなど)をつけている人に勧められた。

- (1) 二まめに清掃するなどの節電に取り組んでいる。
- (2) 冷暖房の温度設定に配慮するなどの節電に取り組んでいる。
- (3) 節電の張り紙を、洗濯や薪水の水やりなどに利用するなど、節電に取り組む。
- (4) 両面紙のトイレットペーパーなど、リサイクル品を積極的に買う。
- (5) できるかぎり自転車は使わないで、自転車やバイク、電車を利用する。
- (6) ゴミの削減に取り組む。
- (7) 古い物を捨てる、リジ換を断る。
- (8) 新品品を購入する時は、節電がよい省エネ型の製品を選ぶ。
- (9) 自分に必要なものかどうか、じっくり考えてから商品を買う。
- (10) その他 (具体的な取り組みご記入ください)

(2) 省エネ、省資源のための器具や機器について(イ)、(ロ)、(ハ)に該当するものを、
 特約の①～④の中から選んで、番号でお答えください。(複数回答可)

- (イ) エコエックカレンジャー(ノート)をつける前に設置した器具類()
- (ロ) エコエックカレンジャー(ノート)をつけるようになって設置した器具類()
- (ハ) その他、別添しようと思ふ器具類 ()
- (ニ) 向付窓の代りに電球型蛍光灯を使うなど、節電器具への買い替え、
- (ロ) 水道の蛇口に節水コマを設置する。
- (ホ) ソーラーシステムを導入する。
- (ヘ) 家庭用LED照明器具を設置する。
- (ハ) 家庭用LED照明器具を設置する。
- (ト) その他 (具体的な取り組みご記入ください)

(3) 地球温暖化防止活動について(イ)、(ロ)、(ハ)に該当するものを、特約の①～④の
 中から選んで、番号でお答えください。(複数回答可)

- (イ) エコエックカレンジャー(ノート)をつける前から取り組んでいる活動()
- (ロ) エコエックカレンジャー(ノート)をつけるようになってから取り組んだ活動()
- (ハ) その他、取り組みたいと思う活動 ()
- (1) エコエックカレンジャー(ノート)をつけている人達と交流会などを持つ。
- (2) 環境ボランティアとして活動する。
- (3) 環境活動に関する研修会、講演会などに積極的に参加する。
- (4) 環境保全団体などの委員になる。
- (5) 兵庫県地球温暖化防止活動推進員・協力員になる。
- (6) 市民共同型の太陽光や風力発電事業に賛同や役員を行なう。
- (7) 仲間と組んで、環境保全活動に取り組む。(例、環境保全活動など)。
- (8) その他 (具体的な取り組みご記入ください)

- (6) 兵庫県の地球温暖化防止活動推進員などに勧められて行った。
- (7) 学校に通う子時代に教えられて知った。
- (8) 企業や団体、学校に勧められる形に勧められて知った。
- (9) 兵庫県の地球温暖化防止活動推進員や協力員などになって知った。
- (10) その他 ()

4. あなたは、エコエックカレンジャー、エコエックノートなどをどれぐらいの期間
 続けておられますか。

- (1) 1年未満 (2) 2年未満 (3) 3年未満 (4) 4年未満 (5) 4年以上

5. あなたは、エコエックカレンジャー、エコエックノートなどを家族や関係者、其
 人などに勧めるようになったことがありますか。

- (1) ある (記入例：はいだれ1人とお話しして3人)
- (2) ない

6. エコエックカレンジャー、エコエックノートなどは、地球温暖化問題などの環境問
 題に対して、あなたの関心や意識にどのような影響をもたらしましたか。

- (1) 関心や意識が高まった。→ それほどのようなことか該当するものを枠内から選び、
 O印をつけてください。(複数回答可)
- (イ) 電費やガス代などが高いほど、本格的な生活だと思っていたのが強りだと気付いた。
- (ロ) 物ま大切に使うことが消費の削減を促すことになると気付いた。
- (ハ) 自分の身の回りに必要以上にものがあることに気付いた。
- (ニ) シンプルな生活でも、充分豊かに、快適に生活できることに気付いた。
- (ホ) 代用品を使ったり、工夫したりすることが楽しくなった。
- (ヘ) 新製品を通いかせることだけが豊かさではないことに気付いた。
- (ト) その他 ()
- (2) 変わらない。

7. エコエックカレンジャー、エコエックノートなどの取り組みは、あなたの省エネ行
 動に、どのような影響をもたらしましたか。特約の(1)、(2)、(3)の欄につい
 て、それぞれお答えください。

- (1) 特約の①～④における行動について(イ)、(ロ)、(ハ)に該当するものを、特約の①～④
 の中から選んで番号で、お答えください。(複数回答可)
- (イ) エコエックカレンジャー(ノート)をつける前から取り組んでいた()
- (ロ) エコエックカレンジャー(ノート)をつけるようになってから取り組んだ()
- (ハ) これから、始めたいと思っている取り組み()

